

国際ロータリー第2750地区 多摩南グループ 東京飛火野ロータリークラブ

Tokyo Tobihino Rotary Club



会長テーマ

会員同士の親睦を深めると共に、
地域社会の奉仕を拡大していく。

2024-25 Weekly Report vol.37-13



会長 仙波秀夫

幹事 日高絢子

2024年10月9日(水) 第1695回 日野RC合同献血例会 於:高幡不動尊駐車場

早朝から両クラブのメンバーが、テント設営、備品備え付けで準備をし、定刻までに完了。赤十字社の献血車も到着、挨拶の後来場者を迎えるました。

コロナ禍で献血事業も停滞し、現在でも献血量は不足しています。

午前中と午後に分けての受付になりましたが、呼びかけに応え献血を申し出る市民がテントを訪れました。恒例の奉仕活動で、両クラブの会員もあらかじめ関係者・知人・友人に呼び掛けており、関係筋の皆さんも多数訪れました。

当日の来場者 献血量は次に掲載しました

クラブ会員来場数 19名 当日献血者 34名

400ml献血者 32名 200ml献血者 2名

ことができませんので、医療機関に安定的に血液を供給するためには、輸血用の血液を十分に確保する必要があります。今後の安定供給のためにも、特に若い世代の献血へのご理解とご協力が不可欠になっています。

広域事業運営体制の導入

安全性の向上、安定供給とともに事業者の責務として効率的な事業運営を行うことで、国民に信頼される持続可能な血液事業体制を確立するため、平成24年4月より広域事業運営体制を導入し、それまでの都道府県単位で行っていた事業を、全国に7つの本社直轄施設(ブロック血液センター)を設置して事業を実施する体制としました。

のことにより、より安全で均質な血液製剤を、安定的に医療機関へ供給することができるようになります。そのため、血液製剤の需給管理業務、検査・製剤業務等をブロック血液センターに集約しました。なお、献血や血液製剤の供給はこれまでと変わらず都道府県の血液センターが担い、さらに安心して献血にご協力いただけ、供給ができるように取り組んでいます。

400mL献血、成分献血をお願いしています

人間一人ひとりの血液は、たとえ血液型が同じでも微妙に違っています。このため複数の献血者の血液をあわせて一人の患者さんに輸血するほど、副

★血液事業の現状とこれから(日本赤十字社 HP)★

◆◆◆少子高齢社会を迎えて◆◆◆

輸血用血液製剤や血漿分画製剤の多くは高齢者の医療に使われており、輸血用血液製剤を使用されている方の約85%は50歳以上の方々です。一方で、献血いただいたいる方の60%以上は50歳未満の方々であり、この世代の方々が輸血医療を大きく支えています。しかし、若年層(10~30代)の献血者数は減少傾向にあります。日本の少子高齢化が今後ますます進んでいくと、将来の安定供給に支障をきたす恐れがあります。血液は長期保存す

作用(発熱・発疹など) 発生の可能性が高くなります。400mL献血と成分献血は、200mL献血に比べて献血量が多いことから、少ない献血者からの輸血を可能にし、安全性を向上させる献血の種類といえます。そのため、献血いただく方のご意思を尊重し、献血によって体調を崩すことのないよう、問診により健康状態について慎重に確認したうえで、400mL献血と成分献血のご協力をお願いしています。

定期的な献血へのご協力のお願い

日本赤十字社では、医療機関の血液需要を予測し、これに沿って献血のご協力ををお願いしています。しかしながら、全国的に見ると、特に冬場から春先

にかけては、風邪などで体調を崩す方が多いことや、学校や企業、団体などの協力が得られにくくなることから献血者が減少しがちです。医療機関へ血液を確実にお届けするために、年間複数回の献血へのご協力をお願いします。



出席報告	総数	出席	MU前	MU後	欠席	出席率
第1694回	27	26	0	-	1	96.3
第1692回	26	25	1	0	1	96.3

ニコニコBOX

本日 1,000円 累計 341,000円

本年度目標額1,200,000円 達成率28.4%

※今週のメークアップ 水野さん

※先々週の後メークアップ なし

